

令和7年度事業報告

<情報提供事業>

○楽しい子どもニュース 「アッタくん」の発行

毎月発行（12月・1月号のみ合併号として発行）で236号から246号まで計11回発行した。イベントの告知や報告だけでなく、スタッフの紹介を載せたり、地域で活躍されている方やB-Net子どもセンターに関わる地域の方々を紹介したりすることができた。昨年度同様、紙配布を続けている。

現在、町内2つの小学校（酒々井小学校、大室台小学校）、スーパー（ナリタヤ、SENDO、タイヨー）、JR酒々井駅、公共施設（酒々井町役場、酒々井町中央公民館、プリミエール、社会福祉協議会）、まがりや、順天堂大学などに配布させていただいている。

内 容	実施日	収 入	支 出	
情報紙 楽しい子どもニュース 「アッタくん」の発行	毎月1回1000部発行	0	情報紙用紙代	16,688
			印刷代	13,580
		0	合計	30,268

○SNSの運用

内 容	実施日	収 入	支 出	
インターネット Instagram ツイッター	随時	0	アサヒネット	29,040

○SNSの運用（Instagram, LINE公式アカウント, BAND）

デジタルデバイスの普及に伴い、今年度はSNSを活用した情報発信に力を入れて運用を行った。SNSを通じてB-Net子どもセンターの活動を広く発信したことで、地域社会とのつながりが広がった。

Instagramでは、B-Netの活動の様子や情報紙「アッタくん」のデジタル版を掲載し、地域の方々が最新の情報を迅速に得られるよう発信を行った。

LINE公式アカウントでは、保護者の方々への連絡手段として活用し、イベント情報や重要事項の一斉配信を行うことで、迅速な情報共有に努めた。

BANDについては、令和6年度より導入したが、活動中の写真や動画を共有することで、これまで要望のあった「活動中の子どもの様子を見たい」というニーズに応えることができた。

これらのSNSの活用により、活動の周知に加え、SNSを通じた新たなつながりが生まれ、地域の方々や関係者との交流の機会が広がった。また、保護者との円滑なコミュニケーションの促進を図ることができた。

○『CANPAN』にて情報を公開

日本財団が提供する公益事業サイト『CANPAN』にてB-Net子どもセンターの概要などの情報を公開している。公開レベルに合わせて星をつけてもらうことができ、満点が星5つのところ、現段階で星5つをいただくことができた。

<子育て支援事業>

子ども教室「アッタくん」やイベントに参加する子どもたちから、年間登録料として2,000円（子ども教室運営費1,200円、年間保険料800円）を徴収した。登録者数は23人であった。保険はスポーツ安全保険で、活動中、通常経路往復中の事故に対応し、保険期間令和7年4月1日から令和8年3月31日まで適用され、保険加入者数は36人であった。

		収入	支出
B-Net 登録人数	22人	26,400	26,400
スポーツ安全保険加入	35人	28,000	28,000
合計		54,400	54,400

§ 自然体験・文化体験・宿泊体験

本事業では、地域の子どもたちがB-Netスタッフの企画するイベントに参加することを通じて、多様な体験活動の中から新たな気づきを得るとともに、集団の中での自己成長を促すことを目的としている。令和7年度においても、自然体験・文化体験・宿泊体験を柱とし、子どもたちにとって日常生活では得がたい学びの機会を提供してきた。自然や季節に関するクイズやネイチャーゲームなどを取り入れることで、楽しみながら知識を深め、思考力・判断力・表現力の育成につなげた。

また、異なる学校や学年の子どもたち同士の交流に加え、地域の方々や大学生スタッフとの関わりを通して、多様な価値観に触れる機会を創出した。これにより、子どもたちは人との関わりの中で思いやりや協力の大切さを学び、社会性やコミュニケーション能力の向上が見られた。さらに、宿泊体験などを通して、自立心や責任感を育む機会ともなった。

今年度は、地域の方々の協力を得ながら体験活動の場を確保し、より充実したプログラムの実施に努めた。また、情報紙やSNS、掲示板等を活用してイベントの周知を行うことで、多くの参加者を迎えることができた。活動後には子どもたちへのフィードバックを行うとともに、保護者とのコミュニケーションを図り、連携の強化にも取り組んだ。

これらの活動を通して、子どもたちが新たなことに興味・関心を持ち、主体的に取り組む姿勢や自己有用感の向上につながったと考えられる。今後も、地域とのつながりを大切にしながら、子どもたちの成長を支える体験活動の充実を図っていききたい。

4月の筍掘り、5月と9月の田植え、稲刈り、6月の料理教室、7月のデイキャンプ、5月・11月の苗植え、芋掘りは子どもゆめ基金から助成金をいただくことができた。

<<子どもゆめ基金助成金事業>>

内容	参加人数	収入	支出	収支
たけのこ探検隊 4月21日 筍掘り 場所：馬橋	助成金 参加 小学生 17人 幼児 0人 保護者 1人 スタッフ 22人	48,898 9,910	51,138	7,670
MY米IN酒々井 5月11日 田植え 9月13日 稲刈り 場所：根古谷	助成金 田植え参加 小学生9人 幼児0人 保護者0人 スタッフ14人 稲刈り参加 小学生12人 幼児1人 保護者2人 スタッフ16人	71,222 5,020 6,640	105,810	-22,928

いも博士になろう！植えて育てて大収穫 5月26日 芋の苗植え 11月1日 芋掘り 場所：西井戸	助成金 苗植え参加 小学生6人 幼児1人 保護者0人 芋掘り参加者 小学生6人 幼児1人 保護者2人 スタッフ18人+16人	94,000 3,380 3,770	94,751	5,699
伝統の味&学びの旅 6月22日 場所：公民館調理室	助成金 参加 小学生17人 スタッフ16人	27,372 9,280	26,652	10,000
キッズ・アドベンチャーデー！ 8月8日 場所：馬橋	助成金 参加 小学生26人 幼児0人 スタッフ25人	43,687 13,000	49,859	6,828
	子どもゆめ基金合計 参加費、保険料	285,179 51,000	328,210	7,969

※収入の上段は子どもゆめ基金からの助成金である。

《《その他事業》》

内 容	参加人数	収 入	支 出	収支
蛭観賞 8月8日 場所：馬橋	参加小学生24人 スタッフ25人	7,200	0	7,200
肝試し 8月22日 場所：酒々井総合公園	参加小学生13人 スタッフ21人	7,280	756	6,524
ハロウィン 10月26日 場所：中央台集会所	参加小学生10人 スタッフ16人	7,500	1,827	5,673
クリスマス 12月21日 場所：公民館調理室	参加小学生9人 幼児0人 スタッフ15人	6,920	10,030	-3,110
お正月 1月11日 場所：B-Net 子どもセンター	参加小学生19人 幼児6人 スタッフ19人 寄付金	15,600 10,000	18,268	7,332
星空合宿 2月22・23日 場所：水郷小見川青少年自然の家	参加小学生30人 スタッフ21人 順大助成金	212,560 30,000	243,465	-905
スペシャルアッタくん	参加小学生33人 幼児4人 スタッフ21人	20,290	11,461	8,829

○B-Net 子ども教室 アッタくん

本年度の B-Net 子ども教室アッタくんでは、「子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり」と「多様な体験や人との関わりを通じた主体性の育成」を目的として活動を行ってきた。近年、子どもたちの新しいことへの挑戦に対する躊躇や失敗を恐れる様子が見受けられる中で、本活動では遊びや体験を通して「やってみよう」とする意欲を引き出し、自分の可能性を前向きに捉えられるよう支援してきた。

活動は毎週木曜日に実施し、子どもたちは屋内外での遊びを通じて、自分たちで遊びを考えたり工夫したりしながら主体的に過ごしていた。また、異学年での関わりの中で自然と助け合いや思いやりの気持ちが育まれ、互いに声をかけ合いながら協力する姿が多く見られた。地域の方々や大学生スタッフとの関わりも、子どもたちにとって多様な価値観に触れる機会となり、コミュニケーション能力や社会性の向上につながった。

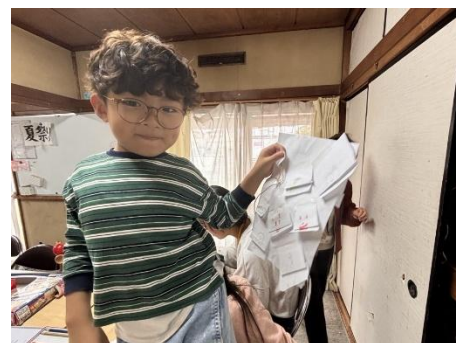
さらに、活動の様子やイベントの情報については、情報紙や SNS、掲示板を活用して発信を行い、地域への周知と理解の促進に努めた。活動後には保護者とのコミュニケーションを図ることで、子どもたちの様子を共有し、安心して参加できる体制づくりにも取り組んだ。また、毎回の活動後にはスタッフ間で振り返りを行い、運営の改善やより良い活動づくりに活かしてきた。

一方で、活動を継続する中でいくつかの課題も見られた。スタッフの人数や配置によっては、十分な見守りや関わりが難しい場面があったことや、活動環境の整理整頓についてさらなる意識向上が求められる点が挙げられる。また、ルールの理解や定着についても、子ども・スタッフ双方で継続的に確認していく必要がある。加えて、子どもたちの成長に伴い、学年が上がるにつれて自分たちで遊べる機会が増えることや、家庭でゲームなど多様な遊びができる環境があることから、参加頻度が低下する傾向も見られた。こうした状況を踏まえ、今後は低学年の参加を促進するとともに、高学年の子どもたちにとっても魅力的で主体的に関われる活動内容の工夫が求められる。

これらの課題に対しては、今後も改善を図りながら、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりと、一人ひとりの成長を支える活動の充実を目指していきたい。本活動を通して、子どもたちが自ら遊びを創り出し、人と関わりながら成長していく姿が多く見られたことは、大きな成果であったといえる。

毎週木曜日放課後から 17 時まで
場所：B-Net 子どもセンター

<<活動写真>>



○酒々井町放課後子ども教室

新・放課後子ども総合プランとは、放課後に子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進するため、各区市町村において、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業（児童クラブ）」を一体的あるいは連携して実施する、総合的な放課後対策事業である。地域の方々からのご協力を得て、勉強やスポーツ、文化活動を行い、異学年の児童や地域住民との交流などを目的とした活動である。

酒々井町では、平成 19 年 10 月から放課後子ども教室事業が始まり、平成 20 年度より町から委託を受け、企画・運営を行ってきた。放課後子ども教室には、地域で子どもを育てる社会教育の役割がある。地域の方を中心とした安全監視指導員と学生スタッフの併存による教室運営により、社会教育に厚みを持たせ、保護者・児童双方のニーズにも広く対応してきた。

令和 7 年度も、地域の方々に多数の教室を開催していただき、昔遊び、将棋、マジック、卓球、習字、造形、スクエアダンスなど、多様な体験活動を通じて、子どもたちにとって充実した放課後の時間を提供することができた。地域の方々との関わりを通して、子どもたちは新たな興味・関心を広げるとともに、異学年・異年齢での交流の中で社会性や協調性を育む姿が見られた。

また、活動後には学生スタッフや地域の方々を交えたミーティングを継続して実施し、その日の振り返りや課題の共有を行うことで、より良い運営に向けた改善に努めた。活動中や下校時の安全面にも十分配慮しながら、安心して参加できる環境づくりを継続して行った。

アンケートについては、今年度は子どもに加えて保護者にも実施し、翌週に回収する形式とした。回収率は前年度と比較してやや低下したものの、保護者の視点からの意見を新たに得ることができ、活動の改善や今後の運営に活かすための貴重な資料となった。

今後も、地域との連携を大切にしながら、子どもたちが安心して多様な体験に取り組むことができる環境を整え、より充実した放課後の場づくりを目指していきたい。

【活動日時・場所】

- 酒々井小学校（主に体育館・ランチルーム・多目的ルーム）
毎週火曜日放課後～午後 16 時 30 分まで
- 大室台小学校（主に体育館・大ちゃんルーム）
毎週月曜日放課後～午後 16 時 30 分まで

小学校	内 容
酒々井小学校	開催日数 30 回、参加人数のべ 761 人(内、しすいっ子 152 人) 書道教室、篠笛・昔遊び教室、スクエアダンス教室、将棋教室、マジック教室、造形教室
大室台小学校	開催日数 20 回、参加人数のべ 752 人(内、大ちゃん 487 人) 書道教室、篠笛・昔遊び教室、スクエアダンス教室、将棋教室、マジック教室、卓球教室

<町づくり等事業>

○B-Net 子ども食堂

昨年度に引き続き、令和7年度もB-Net子どもセンターを会場としてB-Net子ども食堂を実施した。近年、子どもの貧困や孤食といった社会的課題が指摘される中で、子どもたちが安心して温かい食事をとることができる場の必要性は高まっている。本事業では、子どもたちに「誰かと一緒に食卓を囲む時間」を提供するとともに、地域の方々との交流の場としての役割も担うことを目的として継続的に取り組んできた。

開催日は原則として毎月第1・第3金曜日の月2回とし、子どもは無料、大人は200円で参加できる形で実施した。配膳や片付けは子どもたち自身が行うことで、生活力や自立心の育成にもつながるよう工夫した。また、テイクアウトとイトインを併用する中で、イトインの利用も定着しつつあり、食事を通して子ども同士や地域の方々との自然な交流が生まれる場面が多く見られた。

24年11月から25年11月まで月に1度、スターバックスの方が来て、コーヒーや甘い飲み物を提供していただいていた好評だった。

さらに、情報紙やSNS、掲示板、ポスター等を活用して活動の周知を行い、新たな参加者や協力者の獲得にも努めた。地域の方々の協力のもと、継続的に運営を行うことができおり、多世代が関わる地域交流の場としての広がりも感じられる。

令和7年度は酒々井町社会福祉協議会やさかえ・しすいワークサポートセンターをはじめ、地域の皆さまから多くの食材やお菓子のご提供をいただいた。また、政府備蓄米無償交付の申請を行い、精米60キロをいただいた。

毎回多くの参加者が集まり、子ども食堂の取り組みが地域に根つきつつあることを実感している。今後も、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを大切にしながら、食事を通じた交流の機会をさらに充実させ、地域全体で子どもを見守る体制づくりにつなげていきたい。

子ども食堂の状況

	回数	子ども	大人	合計	食事代
令和6年度	22回	691人	460人	1,151人	120,832円
令和7年度	21回	852人	616人	1,468人	154,680円
前年度比	95%	123%	133%	128%	128%

収入合計	455,180円	支出合計	373,226円
助成金	300,000円	食材費	315,000円
食事代	154,680円	消耗品	58,226円
寄付金	500円		
		収支	81,954円

○助成金内訳

ノーツすこやか子ども財団助成金 300,000

○イオン黄色いレシートキャンペーン（成田イオン）

黄色いレシートキャンペーンとは、イオンデー（毎月11日）にイオンで買い物をする際に出る黄色いレシートを登録している団体のボックスに投函すると、総額の1%がその団体に贈られるというものである。令和7年4月にいただいた令和6年度分37000円は、夏祭りの景品を購入した。令和8年3月現在、2025年3月～2026年2月分の35,600円をいただく予定である。購入するものについては検討中である。

○B-Net 子ども夏祭り

令和7年度のB-Net子ども祭りは、地域の活性化と異学年交流の促進を目的として実施した。当初は「秋祭り」として10月上旬の開催を計画していたが、参加可能な学生スタッフの都合や、看板等の既存備品を活用する観点から、名称は「夏祭り」のままとし、昨年同様9月に実施した。これにより、準備や運営の効率化を図りながら、円滑にイベントを開催することができた。

実施日は令和7年9月27日、場所は中央台公園を借用した。7月号の情報紙「アッタくん」にて子どもスタッフの募集を開始し、活動内容やタイムスケジュールの企画立案、班編成や役割分担の決定を行った。その後、子ども会議を重ねながら当日の内容を具体化し、準備を進めた。また、情報紙やポスター掲示等を通じて広報活動を行い、地域への周知を図った。

本イベントでは、子どもスタッフ14名が運営の中心となり、屋台の設営や出し物の企画・実施など、準備から当日の運営まで主体的に関わった。子どもたちは意見を出し合いながら役割分担を行い、互いに協力し合いながらイベントを作り上げる姿が見られ、異学年交流の深化とともに、協調性や達成感を育む機会となった。

また、家庭や学校とは異なる環境の中で、多様な人々と関わりながら活動を進めることで、社会性や主体性の育成にもつながった。自らルールや時間を意識し行動する姿や、他者の意見を尊重しながら自分の考えを伝える姿も見られ、目標としていた資質・能力の育成につながったと考えられる。

当日は多くの地域住民に来場いただき、来場者数は昨年度を上回る結果となった。子どもたちと地域の方々との交流の場としても有意義な機会となり、新たなつながりの創出や地域の一体感の醸成にも寄与したといえる。

さらに、来年度のB-Net子ども夏祭りに向けては、公益財団法人ちばのWA地域づくり基金「子どもの今と未来を支える基金」に採択され、200,000円の助成金を受けることが決定した。これにより、今後はより充実した内容での開催が期待される。

今後も、本取り組みを継続しながら、より多くの子どもたちや地域住民が関わることのできるイベントとして発展させ、酒々井町の恒例行事として定着していくことを目指していきたい。

項目		項目	
子どもスタッフ参加費	7,000	講師謝礼	0
寄付金	188,700	会議費	19,790
カンパ	3,325	備品購入	0
自己資金	0	印刷製本	32,583
		景品	10,333
収入計	199,025	消耗品	37,020
		通信運搬費	6,050
		保険料	1,420
		雑費	13,552
		保健衛生	0
		屋台	45,792
		折込料	26,455
		支出計	192,995
		収 支	6,030

